

新 旧 対 照 表

土工施工管理要領 I . 総則

令和元年 7 月

土工施工管理要領 I. 総則 新旧対照表 (1 / 1)

現 行 (土工施工管理要領 I. 総則 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 I. 総則 令和元年7月版)	備 考
<p>4. 施工管理試験の基本事項</p> <p>4-1 施工管理試験 受注者が行う施工管理試験の種類は、材料試験、基準試験、日常管理試験などである。</p> <p>4-2 試験方法 試験方法は、本要領によるほか、NEXCO 試験方法 (以下「試験法」と呼ぶ。) および日本工業規格 (J I S) 等によるものとする。</p> <p>4-3 試験結果の報告 試験結果は、各章における「報告事項」にしたがって監督員に報告しなければならない。また、報告書の様式は本要領、試験法および日本工業規格 (J I S) 等によるものとする。</p> <p>4-4 判 定 規定値を満足しない事項が生じた場合、受注者は速やかに監督員に報告し、その指示を得るものとする。</p> <p>5. 施工管理試験の項目および頻度 本要領の各章に示す施工管理の内容については、一般的な標準を示したものであり、下記のような場合は監督員が現地の状況に応じて、項目・頻度あるいは試験条件の変更を指示することがある。</p> <p>(1) 工事の初期で作業が定常的になっていない場合 (2) 施工管理試験結果が限界値に異常接近した場合 (3) 試験の結果、品質および出来形に均一性を欠いた場合 (4) 特殊な工法、機械、混合物等を使用する場合 (5) 厳しい施工条件下で施工する場合 (6) 現場の材料、施工法、出来形が常に安定し、規定値を満足している場合。 (7) その他監督員が指示する場合</p> <p>6. 施工管理試験結果の反映 施工管理試験結果については速やかに整理し、現場の施工に反映しなければならない。ただし、試験結果は試験を実施した箇所および試料を採取した場所等の局所的な品質の判定資料にすぎない。したがって、その結果だけではその付近が均一に施工されている保証とはならない。現場の均一性および代表的な試験結果であることを保証するためには、試験項目および頻度を画一的に消化するばかりでなく、現場作業員に対しても常に現場の均一性を図るように指導し、あわせて試験箇所および試料の採取箇所の選定にあたっては十分監督員と協議する必要がある。</p> <p>7. 一般事項</p> <p>(1) 受注者は、製品納入時の管理、施工機械および施工方法の管理、施工中の管理など、工事の全般にわたって所定の基準に適合するように品質および施工管理を行なわなければならない。</p> <p>(2) 受注者が行なう品質および施工管理試験は、各項に定めるとおりとする。なお、品質および施工管理試験項目の中で、監督員の立会いを必要とする検査および試験については監督員あてに所定の立会い願を提出しなければならない。</p> <p>(3) 品質および出来形は、各項目に示す規定によるものとする。</p>	<p>4. 施工管理試験の基本事項</p> <p>4-1 施工管理試験 受注者が行う施工管理試験の種類は、材料試験、基準試験、日常管理試験などである。</p> <p>4-2 試験方法 試験方法は、本要領によるほか、NEXCO 試験方法 (以下「試験法」と呼ぶ。) および日本工業規格 (J I S) 等によるものとする。</p> <p>4-3 試験結果の報告 試験結果は、各章における「報告事項」にしたがって監督員に報告しなければならない。また、報告書の様式は本要領、試験法および日本工業規格 (J I S) 等によるものとする。</p> <p>4-4 判 定 規定値を満足しない事項が生じた場合、受注者は速やかに監督員に報告し、その指示を得るものとする。</p> <p>5. 施工管理試験の項目および頻度 本要領の各章に示す施工管理の内容については、一般的な標準を示したものであり、下記のような場合は監督員が現地の状況に応じて、項目・頻度あるいは試験条件の変更を指示することがある。</p> <p>(1) 工事の初期で作業が定常的になっていない場合 (2) 施工管理試験結果が限界値に異常接近した場合 (3) 試験の結果、品質および出来形に均一性を欠いた場合 (4) 特殊な工法、機械、混合物等を使用する場合 (5) 厳しい施工条件下で施工する場合 (6) 現場の材料、施工法、出来形が常に安定し、規定値を満足している場合 <u>(7) 他の工事で実施した、当該工事と同じ材料の土質試験結果や同じ施工条件のモデル施工結果がある場合</u> <u>(8) その他監督員が指示する場合</u></p> <p>6. 施工管理試験結果の反映 施工管理試験結果については速やかに整理し、現場の施工に反映しなければならない。ただし、試験結果は試験を実施した箇所および試料を採取した場所等の局所的な品質の判定資料にすぎない。したがって、その結果だけではその付近が均一に施工されている保証とはならない。現場の均一性および代表的な試験結果であることを保証するためには、試験項目および頻度を画一的に消化するばかりでなく、現場作業員に対しても常に現場の均一性を図るように指導し、あわせて試験箇所および試料の採取箇所の選定にあたっては十分監督員と協議する必要がある。</p> <p>7. 一般事項</p> <p>(1) 受注者は、製品納入時の管理、施工機械および施工方法の管理、施工中の管理など、工事の全般にわたって所定の基準に適合するように品質および施工管理を行なわなければならない。</p> <p>(2) 受注者が行なう品質および施工管理試験は、各項に定めるとおりとする。なお、品質および施工管理試験項目の中で、監督員の立会いを必要とする検査および試験については監督員あてに所定の立会い願を提出しなければならない。</p> <p><u>(3) 受注者は、品質管理や出来形の測定において、監督員が認める ICT (Information and Communication Technology) を積極的に活用してよい。</u></p> <p><u>(4) 品質および出来形は、各項目に示す規定によるものとする。</u></p>	

新 旧 对 照 表

土工施工管理要領 II. 盛土工

令和元年 7 月

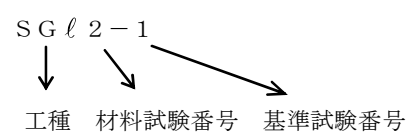
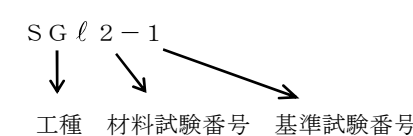
土工施工管理要領 Ⅱ．盛土工 新旧対照表 (1 / 6)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅱ．盛土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 Ⅱ．盛土工 令和元年7月版)	備 考
<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">Ⅱ． 盛 土 工</h1> <p>1. 適 用</p> <p>本章は、土木工事共通仕様書、維持修繕作業共通仕様書、設計図書および監督員の指示にしたがって施工する盛土工の品質管理、施工管理、出来形基準、報告事項および様式について適用する。</p> <p>なお、本編に示す盛土の施工管理基準は盛土量 2,000m³を超える建設工事の標準的な施工管理基準を示したものである。盛土量 2,000m³以下の場合は、Ⅲ 維持修繕工事を適用するものとする。</p> <p>2. 一般事項</p> <p>土工工事の施工管理試験は、現場の責任者が施工途中において生じる種々の問題点を早期に把握し、工事の手戻り、能率の低下がないよう、また、品質が各段階ごとに契約書類の規定に適合しているかどうかを確認するために実施するものである。したがって、施工管理試験の結果はすべての現場施工の技術上の判断手段として使われるものであり、土工作业と有機的に結びついたものである。すなわち、受注者は試験の主旨と方法を熟知し、変化の激しい土工作业の各段階に応じて何を試験すべきであるかということを、正しく判断しなければならない。そのためには、工事の初期に徹底した手段で整然とした現場を作ることに努力し、整然とした作業の習慣を打ち立てたうえで施工管理試験を行うべきである。</p> <p>また、施工にあたっては、常に土質・地質や湧水状況を把握し、必要に応じて動態観測を用いた情報化施工を行い、その施工情報を工事に反映するとともに、施工時に得た情報は詳細に記録し、確実に維持管理へ引継いでいく必要がある。</p> <p>各作業段階における施工管理上の着眼点は、下記に示すとおりである。</p> <p>(1) 準備段階</p> <p>工事に先立ち、施工計画をたて、契約書類に適合する施工を行うためには、どのような条件を守らねばならないか下記の諸点について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事前に実施された調査資料と現地との確認 ② 盛土の基礎地盤、表土の状況や湧水の状況など現地条件の把握 ③ 準備排水、段切りおよび施工層厚さなどの検討 ④ 盛土材料（切土部や土取場）の土質試験（特に、施工含水比、トラフィカビリティーおよび不良土についての検討） ⑤ 盛土材料の質と量による経済的な使用区分（路床材、裏込め材、盛土地盤材、排水材、有用表土、不良土など）の検討 ⑥ 近隣の立地条件や土地利用状況など周辺環境の把握 <p>(2) 作業計画段階</p> <p>工事準備を行っている段階に十分な検討を重ねて、契約書類に適合した施工をするために必要な作業方法を決定する。このために工期と気象、地形と地質、工事用道路と土工機械の計画、作業準備、施工管理方法と試験および施工体制と保安等について、主に下記の諸点について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 土量配分計画および施工機械の配置 ② 伐開除根の施工方法と時期および表土の有効利用方法 ③ 構造物の施工に合致した切土、盛土の詳細な作業順序と工程 ④ 土運搬の方法とトラフィカビリティーの確保 ⑤ 転圧方法と含水比の調整方法 	<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">Ⅱ． 盛 土 工</h1> <p>1. 適 用</p> <p>本章は、土木工事共通仕様書、維持修繕作業共通仕様書、設計図書および監督員の指示にしたがって施工する盛土工の品質管理、施工管理、出来形基準、報告事項および様式について適用する。</p> <p>なお、本編に示す盛土の施工管理基準は盛土量 2,000m³を超える建設工事の標準的な施工管理基準を示したものである。盛土量 2,000m³以下の場合は、Ⅲ 維持修繕工事を適用するものとする。</p> <p>2. 一般事項</p> <p>土工工事の施工管理試験は、現場の責任者が施工途中において生じる種々の問題点を早期に把握し、工事の手戻り、能率の低下がないよう、また、品質が各段階ごとに契約書類の規定に適合しているかどうかを確認するために実施するものである。したがって、施工管理試験の結果はすべての現場施工の技術上の判断手段として使われるものであり、土工作业と有機的に結びついたものである。すなわち、受注者は試験の主旨と方法を熟知し、変化の激しい土工作业の各段階に応じて何を試験すべきであるかということを、正しく判断しなければならない。そのためには、工事の初期に徹底した手段で整然とした現場を作ることに努力し、整然とした作業の習慣を打ち立てたうえで施工管理試験を行うべきである。</p> <p>また、施工にあたっては、常に土質・地質や湧水状況を把握し、必要に応じて動態観測を用いた情報化施工を行い、その施工情報を工事に反映するとともに、施工時に得た情報は詳細に記録し、確実に維持管理へ引継いでいく必要がある。</p> <p style="color: red; text-decoration: underline;">土工工事では ICT 土工と称して ICT が積極的に活用されている。したがって、受注者は品質管理や出来形の測定において、ICT を積極的に導入してよい。なお、導入にあたって受注者は監督員と十分に協議するものとする。</p> <p>各作業段階における施工管理上の着眼点は、下記に示すとおりである。</p> <p>(1) 準備段階</p> <p>工事に先立ち、施工計画をたて、契約書類に適合する施工を行うためには、どのような条件を守らねばならないか下記の諸点について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事前に実施された調査資料と現地との確認 ② 盛土の基礎地盤、表土の状況や湧水の状況など現地条件の把握 ③ 準備排水、段切りおよび施工層厚さなどの検討 ④ 盛土材料（切土部や土取場）の土質試験（特に、施工含水比、トラフィカビリティーおよび不良土についての検討） ⑤ 盛土材料の質と量による経済的な使用区分（路床材、裏込め材、盛土地盤材、排水材、有用表土、不良土など）の検討 ⑥ 近隣の立地条件や土地利用状況など周辺環境の把握 <p>(2) 作業計画段階</p> <p>工事準備を行っている段階に十分な検討を重ねて、契約書類に適合した施工をするために必要な作業方法を決定する。このために工期と気象、地形と地質、工事用道路と土工機械の計画、作業準備、施工管理方法と試験および施工体制と保安等について、主に下記の諸点について検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 土量配分計画および施工機械の配置 ② 伐開除根の施工方法と時期および表土の有効利用方法 ③ 構造物の施工に合致した切土、盛土の詳細な作業順序と工程 	

土工施工管理要領 II. 盛土工 新旧対照表 (2 / 6)

現 行 (土工施工管理要領 II. 盛土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 II. 盛土工 令和元年7月版)	備 考
<p>3-4 RI計器による管理</p> <p>(1) RI計器</p> <p>ここに示すRI計器は、透過型RI水分密度計器のことを示す。RI計器の使用における留意点を以下に示す。</p> <p>① 使用するRI計器は会社で定める仕様(参考資料I)を満足するとともに、性能確認試験を受けたものとする。使用に当っては、RI計器使用届(様式-1)を監督員へ提出するものとする。なお、故障等によりRI計器を変更した場合は、その都度監督員へ申し出るものとする。</p> <p>② RI計器は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律における表示付認証機器に該当するため、使用保管および運搬に関する条項を遵守することが義務付けされている。したがって、RI計器の線源の取扱いにあたっては、以下の項目について配慮し、紛失盗難対策を実施しなければならない。</p> <p>a) 管理者を選任して安全には特に配慮をする。</p> <p>b) 保管場所を明確にし、厳重に管理する。保管場所としては人があまり出入りせず、施錠できる場所を選ぶ。</p> <p>c) 線源の廃棄および交換に際しては、必ず製造者に委託し安全で適切な処置を講じなければならない。</p> <p>d) RI計器の線源の取扱いに関する内容を熟知し、紛失防止や安全管理に十分配慮する。</p> <p>(2) 材料試験</p> <p>材料試験は、材料の物理特性、締固め特性、強度特性を調査し、盛土各部の品質として使用し得るか、好ましいものであるかの判断の基礎とし、かつ、施工方法、管理方法、締固め基準の選択などの検討資料を得るために行うものである。</p> <p>① 試験項目と頻度および報告書の様式</p> <p>試験項目と頻度および報告書の様式は表II-7によるものとする。</p> <p>なお、安定処理を行う場合には、表II-8に示す配合試験を行うものとする。</p> <p>② 材料試験の実施に当たって、試料採取の位置、時期、方法は計画立案の上、監督員と打合せで行うものとする。</p> <p>③ 土取場等の掘削については、路床施工の早期に対象区間内の土性が確認できるように掘削計画を立案する。</p> <p>④ 路床の材料試験は、現場進捗が少なくとも上部路体施工前に完了し、材料の適否を判断できるようにする。</p> <p>⑤ 盛土および路床材等でスレーキングの可能性のある材料(ぜい弱岩)を用いる場合は、試験法109 破砕性判定のための岩石の破砕試験方法、試験法110 岩石の促進スレーキング試験方法により、そのスレーキングの程度を見ることが必要である(図II-3参照)。特に、構造物裏込め部、盛りこぼし橋台盛土地盤部および補強土壁裏込め部では、十分に検討を行う必要がある。</p>	<p>3-4 RI計器による管理</p> <p>(1) RI計器</p> <p>ここに示すRI計器は、透過型RI水分密度計器のことを示す。</p> <p>① RI計器の使用における留意点を以下に示す。使用するRI計器は会社で定める仕様(参考資料I)を満足し、性能確認試験を受けたものとする。また、RI計器は測定結果を電子データで出力する機能を有するものを使用する。使用に当っては、RI計器使用届(様式-1)を監督員へ提出するものとする。なお、故障等によりRI計器を変更した場合は、その都度、RI計器使用届(様式-1)を監督員へ提出するものとする。</p> <p>② RI計器は、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律における表示付認証機器に該当するため、使用保管および運搬に関する条項を遵守することが義務付けされている。したがって、RI計器の線源の取扱いにあたっては、以下の項目について配慮し、紛失盗難対策を実施しなければならない。</p> <p>a) 管理者を選任して安全には特に配慮をする。</p> <p>b) 保管場所を明確にし、厳重に管理する。保管場所としては人があまり出入りせず、施錠できる場所を選ぶ。</p> <p>c) 線源の廃棄および交換に際しては、必ず製造者に委託し安全で適切な処置を講じなければならない。</p> <p>d) RI計器の線源の取扱いに関する内容を熟知し、紛失防止や安全管理に十分配慮する。</p> <p>(2) 材料試験</p> <p>材料試験は、材料の物理特性、締固め特性、強度特性を調査し、盛土各部の品質として使用し得るか、好ましいものであるかの判断の基礎とし、かつ、施工方法、管理方法、締固め基準の選択などの検討資料を得るために行うものである。</p> <p>① 試験項目と頻度および報告書の様式</p> <p>試験項目と頻度および報告書の様式は表II-7によるものとする。なお、安定処理を行う場合には、表II-8に示す配合試験を行うものとする。</p> <p>② 材料試験の実施に当たって、試料採取の位置、時期、方法は計画立案の上、監督員と打合せで行うものとする。</p> <p>③ 土取場等の掘削については、路床施工の早期に対象区間内の土性が確認できるように掘削計画を立案する。</p> <p>④ 路床の材料試験は、現場進捗が少なくとも上部路体施工前に完了し、材料の適否を判断できるようにする。</p> <p>⑤ 盛土および路床材等でスレーキングの可能性のある材料(ぜい弱岩)を用いる場合は、試験法109 破砕性判定のための岩石の破砕試験方法、試験法110 岩石の促進スレーキング試験方法により、そのスレーキングの程度を見ることが必要である(図II-3参照)。特に、構造物裏込め部、盛りこぼし橋台盛土地盤部および補強土壁裏込め部では、十分に検討を行う必要がある。</p>	

土工施工管理要領 II. 盛土工 新旧対照表 (3 / 6)

現 行 (土工施工管理要領 II. 盛土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 II. 盛土工 令和元年7月版)	備 考
<p>(f) 材料番号;工種に材料番号および基準試験番号を記入したもの。</p> <p>例)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(g) 管理方法;空気間隙率$\bar{v}_a(\%)$, 密度比$\bar{D}_c(\%)$, 特別規定値$\bar{D}_s(\%)$ 試験法 106 (R I 計器による土の密度試験方法)</p> <p>(h) 含水比;土取場の含水比は工事開始前に測定した地山の自然含水比を記入し, 締固め時の含水比は現場密度測定の際の含水比を記入する。</p> <p>⑦ R I 計器による現場密度の測定データ(出力データ)は基準値を満さないものも含め, すべて試験様式-111の用紙にはり付けて整理する。なお, R I 計器の出力例については参考資料Ⅲを参照されたい。 測定時には, 下記項目を入力する。</p> <p>(a) 測定位置 (b) 盛土の部位, 対象土の種類 (c) 強熱減量補正係数 α (d) 最大乾燥密度 (e) 土粒子の密度</p> <p>⑧ 日常管理試験が不合格の場合の処置は, 再施工を原則とする。この場合, 不合格となった原因について十分に検討し, 以降の作業において同様の事態が生じないような処置を考慮するものとする。再施工後の報告書は, 不合格となった理由, 再施工の方法について明記する。不合格箇所に関するデータシートなどの書類は再施工後の報告書に添付するものとし, 廃棄してはならない。</p> <p>⑨ 品質管理図は, 施工過程において総括的に現場の品質管理状況を把握し, 施工が規定値を満足していることを確認するため作成するものである。 品質管理図の記入要領は, 図Ⅱ-5によるものとする。なお, 管理様式-103は基準試験ごとに整理するものとする。</p> <p>⑩ 構造物裏込めの施工管理図は, 施工過程において構造物の裏込め部が均質な品質が得られていることを確認するために作成するものである。</p> <p>⑪ 盛りこぼし橋台盛土地盤の施工管理図は, 施工過程において盛土地盤が均質な品質が得られていることを確認するために作成するものである。</p>	<p>(f) 材料番号;工種に材料番号および基準試験番号を記入したもの。</p> <p>例)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(g) 管理方法;空気間隙率$\bar{v}_a(\%)$, 密度比$\bar{D}_c(\%)$, 特別規定値$\bar{D}_s(\%)$ 試験法 106 (R I 計器による土の密度試験方法)</p> <p>(h) 含水比;土取場の含水比は工事開始前に測定した地山の自然含水比を記入し, 締固め時の含水比は現場密度測定の際の含水比を記入する。</p> <p>⑦ R I 計器による現場密度の測定データは, <u>R I 計器から直接, 電子データで出力する。この時, 出力データは数値の変更などの加工をしてはならない。出力データは「工事情報共有・保存システム (Kcube2)」のクライアントツールを用いてシステムに取り込む。取り込むデータは基準値を満さないものも含め, 平均値のみならずすべての計測点データとする。</u>なお, R I 計器の出力例については参考資料Ⅲを参照されたい。 測定時には, 下記項目を入力する。</p> <p>(a) 測定位置 (b) 盛土の部位, 対象土の種類 (c) 強熱減量補正係数 α (d) 最大乾燥密度 (e) 土粒子の密度</p> <p>⑧ 日常管理試験が不合格の場合の処置は, 再施工を原則とする。この場合, 不合格となった原因について十分に検討し, 以降の作業において同様の事態が生じないような処置を考慮するものとする。再施工後の報告書は, 不合格となった理由, 再施工の方法について明記する。不合格箇所に関するデータシートなどの書類は再施工後の報告書に添付するものとし, 廃棄してはならない。</p> <p>⑨ 品質管理図は, 施工過程において総括的に現場の品質管理状況を把握し, 施工が規定値を満足していることを確認するため作成するものである。 品質管理図の記入要領は, 図Ⅱ-5によるものとする。なお, 管理様式-103は基準試験ごとに整理するものとする。</p> <p>⑩ 構造物裏込めの施工管理図は, 施工過程において構造物の裏込め部が均質な品質が得られていることを確認するために作成するものである。</p> <p>⑪ 盛りこぼし橋台盛土地盤の施工管理図は, 施工過程において盛土地盤が均質な品質が得られていることを確認するために作成するものである。</p>	<p>3-4 R I 計器による管理 (3) 基準試験および日常管理試験</p>

土工施工管理要領 II. 盛土工 新旧対照表 (5/6)

現 行 (土工施工管理要領 II. 盛土工 平成29年7月版)							改 定 (土工施工管理要領 II. 盛土工 令和元年7月版)							備 考	
盛土の構成部位	種 別	項 目	試 験 項 目	試 験 方 法	試 験 頻 度	報告書の様式	備 考	盛土の構成部位	種 別	項 目	試 験 項 目	試 験 方 法	試 験 頻 度	報告書の様式	備 考
構造物	裏込め	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141	日常管理試験のRI計測による土の密度・含水量測定結果は、電子データで出力する。出力データはクライアントツールを用いて、工務情報共有・保存システムに取り込む。	裏込め	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
	裏込めB・埋戻しA	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日6点 注2)	試験様式-144								
インバート埋戻し工	インバート埋戻し	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
	盛りこぼし橋台盛土地盤部	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	10,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-111								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	10,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	10,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
補強土壁裏込め部	裏込め	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
	バーチカルドレーン・表層排水工管理試験	空気間隙率(Ua)で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1202] 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6321 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		密度比(Dc)で管理する土質	基準試験	突き固めによる土の締固め試験 強熱減量の設定	試験法[JIS A 1210] 呼び名 E 試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	地盤工学会 6521 地盤工学会 6522 試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
		特別規定値(Ds)で管理する土質	基準試験	VR転圧力 200kN級 16回締固め 注3) 強熱減量の設定	試験法 106	5,000m ³ に1回 材料の異なるごとに1回	試験様式-141								
			日常管理試験	R1計測による土の密度・含水量測定	試験法 106	施工箇所一層ごとに1日15点 注1)	試験様式-144								
表層排水工	土の粒度試験	試験法[JIS A 1204]	1作業日 1回	地盤工学会 6341 6342, 6343											
バーチカルドレーン	土の粒度試験	試験法[JIS A 1204]	1作業日 1回	地盤工学会 6341 6342, 6343											
表層排水工管理試験	土の粒度試験	試験法[JIS A 1204]	1作業日 1回	地盤工学会 6341 6342, 6343											

注 1) 空気間隙率(v_a), 密度比(D_c), 特別規定値(D_s)の管理基準は15点の平均値とする。
2) 空気間隙率(v_a), 密度比(D_c), 特別規定値(D_s)の管理基準は6点の平均値とする。

注 1) 空気間隙率(v_a), 密度比(D_c), 特別規定値(D_s)の管理基準は15点の平均値とする。
2) 空気間隙率(v_a), 密度比(D_c), 特別規定値(D_s)の管理基準は6点の平均値とする。

土工施工管理要領 II. 盛土工 新旧対照表 (6 / 6)

現 行 (土工施工管理要領 II. 盛土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 II. 盛土工 令和元年7月版)	備 考
<p>8. 報告事項</p> <p>8-1 報告書の管理 各種試験, 調査等の報告書は, 工事が終了するまで, 受注者が責任をもって分類, 保管し, 監督員から別途提出要求のあった時は, 速やかに提出できるようにしておかなければならない。</p> <p>8-2 報告書の分類, 整理 報告書は, 表II-29に示すように各種調査, 試験ごとに分類しておくものとし, それぞれの報告書の整理は, 次に示す事項にしたがって行うものとする。</p> <p>(1) 材料試験 報告書は, 土質試験結果一覧表 (試験様式-140) および試験法データシートの順に整理するものとする。</p> <p>(2) 切土部路床調査 報告書は, 切土部路床調査報告 (管理様式-102) および試験法データシートの順に整理するものとする。 なお, 調査ごとに一連の番号を付して整理する。 (例) 切土部路床調査 - ①</p> <p>(3) 基準試験 および日常管理試験 基準試験結果は, 同一と見なされる材料ごとに, 例に示すように一連の番号を付しておくものとする。 (例) E_ℓ 2-1, E_ℓ 2-2, …………… E_ℓ 2という下部路体材料の基準試験結果番号1, 2, 3, ……であることを示し, E_ℓ 2は, 材料試験番号とも対応する。 基準試験結果は, それぞれの材料別に土質試験結果報告書 (対応する材料試験のもの) および基準試験結果の順に整理しておくものとする。 日常管理試験結果は, それぞれの工種ごと (下部路体, 上部路体等) に整理しておくものとする。</p> <p>(4) 品質管理図 品質管理図は, 材料ごとに整理するものとする。</p> <p>(5) 施工管理図 施工管理図は, 構造物ごとに整理するものとする。</p> <p>(6) 路床の最終試験結果 報告書は, たわみ測定試験結果 (管理様式-105) および試験法データシートの順に整理するものとする。</p> <p>(7) 地盤の平板載荷試験結果 盛りこぼし橋台盛土地盤の施工における地盤の平板載荷試験の結果を整理するものとする。</p> <p>8-3 報告書の提出 施工管理試験, 調査等の結果は, 指定された報告書の様式に従って, 表II-29に示す部数を期日に提出しなければならない。提出は工事管理支援システムを用いることを原則とする。 なお, 日常管理試験結果については, 別途, 管理様式-101に示す週報を毎週監督員に提出するものとする。</p>	<p>8. 報告事項</p> <p>8-1 報告書の管理 各種試験, 調査等の報告書は, 工事が終了するまで, 受注者が責任をもって分類, 保管し, 監督員から別途提出要求のあった時は, 速やかに提出できるようにしておかなければならない。</p> <p>8-2 報告書の分類, 整理 報告書は, 表II-29に示すように各種調査, 試験ごとに分類しておくものとし, それぞれの報告書の整理は, 次に示す事項にしたがって行うものとする。</p> <p>(1) 材料試験 報告書は, 土質試験結果一覧表 (試験様式-140) および試験法データシートの順に整理するものとする。</p> <p>(2) 切土部路床調査 報告書は, 切土部路床調査報告 (管理様式-102) および試験法データシートの順に整理するものとする。 なお, 調査ごとに一連の番号を付して整理する。 (例) 切土部路床調査 - ①</p> <p>(3) 基準試験 および日常管理試験 基準試験結果は, 同一と見なされる材料ごとに, 例に示すように一連の番号を付しておくものとする。 (例) E_ℓ 2-1, E_ℓ 2-2, …………… E_ℓ 2という下部路体材料の基準試験結果番号1, 2, 3, ……であることを示し, E_ℓ 2は, 材料試験番号とも対応する。 基準試験結果は, それぞれの材料別に土質試験結果報告書 (対応する材料試験のもの) および基準試験結果の順に整理しておくものとする。 日常管理試験結果は, <u>試験後にその値を確認し翌日の施工に役立てるものである。結果は, それぞれの工種ごと (下部路体, 上部路体等) に整理しておくものとする。日常管理試験においてRI計器による土の密度・含水量測定を行った場合は, その印字記録を自主保存するものとする。なお, 出来形検査時または監督員に求められたときには速やかに提出しなければならない。</u></p> <p>(4) 品質管理図 品質管理図は, 材料ごとに整理するものとする。</p> <p>(5) 施工管理図 施工管理図は, 構造物ごとに整理するものとする。</p> <p>(6) 路床の最終試験結果 報告書は, たわみ測定試験結果 (管理様式-105) および試験法データシートの順に整理するものとする。</p> <p>(7) 地盤の平板載荷試験結果 盛りこぼし橋台盛土地盤の施工における地盤の平板載荷試験の結果を整理するものとする。</p> <p>8-3 報告書の提出 施工管理試験, 調査等の結果は, 指定された報告書の様式に従って, 表II-29に示す部数を期日に提出しなければならない。提出は「<u>工事情報共有・保存システム(Kcube2)</u>」を用いることを原則とする。 なお, 日常管理試験結果については, 別途, 管理様式-101に示す週報を毎週監督員に提出するものとする。</p>	

新 旧 对 照 表

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工

令和元年 7 月

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 新旧対照表 (1 / 5)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 平成29年7月版)								改 定 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 令和元年7月版)								備 考	
表3-6-1 品質管理の種類 (2)								表3-6-1 品質管理の種類 (2)									
種別	品質管理項目	品質管理方法	品質管理の頻度	品質管理基準	報告書提出日	監督員の立会を要するもの	報告書様式	種別	品質管理項目	品質管理方法	品質管理の頻度	品質管理基準	報告書提出日	監督員の立会を要するもの	報告書様式		
日常管理試験	細骨材	表面水率	JIS A 1111 JIS A 1125	2回/日	—	吹付工を施工した翌週	管理様式 — 3602 3603	細骨材	表面水率	JIS A 1111 JIS A 1125	2回/日	—	吹付工を施工した翌週	—	管理様式 — 3602 3603		
	粗骨材	表面水率	JIS A 1803	1回/週, その他監督員が指示する場合	—	ただし, 本線外工事の場合は自主保存		粗骨材	表面水率	JIS A 1803	1回/週, その他監督員が指示する場合	—	ただし, 本線外工事の場合は自主保存				
	繊維補強コンクリート吹付	強度試験用供試体の作り方(圧縮強度試験用)	試験法 315	1回/日	—	1) 材令 28 日における強度試験 10 回ごと ただし, 本線外工事の場合は自主保存 2) 異常が認められた場合は 10 回未満でも速やかに報告	⊖	管理様式 — 3604 3605	日常管理試験	強度試験用供試体の作り方(圧縮強度試験用)	試験法 315	1回/日	—	1) 材令 28 日における強度試験 10 回ごと ただし, 本線外工事の場合は自主保存 2) 異常が認められた場合は 10 回未満でも速やかに報告	—		管理様式 — 3604 3605
		圧縮強度試験	JIS A 1108		$\sigma 7 = \sigma ck \times 0.7N/mm^2$ 以上 $\sigma ck = 18N/mm^2$ 以上					強度試験用供試体の作り方(圧縮強度試験用)	JIS A 1108		$\sigma 7 = \sigma ck \times 0.7N/mm^2$ 以上 $\sigma ck = 18N/mm^2$ 以上				
		繊維混入率試験 注 2)	JSCE-F554 「鋼繊維補強コンクリートの繊維混入率試験方法」の洗い分析試験方法による		2回の平均値が設計混入率の±5%以内 (0.95~1.05%)					繊維混入率試験 注 2)	JSCE-F554 「鋼繊維補強コンクリートの繊維混入率試験方法」の洗い分析試験方法による		2回の平均値が設計混入率の±5%以内 (0.95~1.05%)				
		強度試験用供試体の作り方(曲げタフネス試験用) 注 3)	JSCE-F552 「鋼繊維補強コンクリートの強度およびタフネス試験用供試体の作り方(案)」		「3-6-7 繊維補強コンクリートおよびモルタル吹付に関する性能確認手法」を満足すること					強度試験用供試体の作り方(曲げタフネス試験用) 注 3)	JSCE-F552 「鋼繊維補強コンクリートの強度およびタフネス試験用供試体の作り方(案)」		「3-6-7 繊維補強コンクリートおよびモルタル吹付に関する性能確認手法」を満足すること				
	曲げタフネス試験	JSCE-G552 「鋼繊維補強コンクリートの曲げ強度および曲げタフネス試験方法(案)」	—	曲げタフネス試験	JSCE-G552 「鋼繊維補強コンクリートの曲げ強度および曲げタフネス試験方法(案)」	—											
	塩化物含有量 (C _v)	JIS A 1144 又は簡易塩分測定器*** 注 1)	1回/週 ただし, 海産骨材を使用する場合は, 2回/日	600g/m ³ 以下	吹付工を施工した翌週, ただし, 本線外工事の場合は自主保存	—	管理様式 — 3602	日常管理試験	塩化物含有量 (C _v)	JIS A 1144 又は簡易塩分測定器*** 注 1)	1回/週 ただし, 海産骨材を使用する場合は, 2回/日	600g/m ³ 以下	吹付工を施工した翌週, ただし, 本線外工事の場合は自主保存	—	管理様式 — 3602		

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 新旧対照表 (2 / 5)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 令和元年7月版)	備 考
<p>※現地吹付条件が、共通仕様書に規定された圧送距離および施工高さの範囲内にある場合には、材令7日の強度試験結果が規定値を満足していれば、監督員に報告のち施工を開始することができる。ただし、材令28日の強度試験結果についても後日報告するものとする。</p> <p>※簡易塩分測定器は、(財)国土技術研究センターが技術評価し合格した簡易塩分測定器とする。ただし、簡易塩分測定器により測定不能の場合は、低濃度で測定できるものを使用してもよい。</p> <p>注1) 日常管理試験では簡便に測定する機器で行ってよい。</p> <p>注2) 吹付け筒先および練り混ぜ直後の試料を採取し、設計混入率1.0%の基準に対し0.95~1.05%の混入率になっているかを確認する。</p> <p>注3) 練り混ぜ直後の試料を採取し、試験を行う。</p>	<p>※現地吹付条件が、共通仕様書に規定された圧送距離および施工高さの範囲内にある場合には、材令7日の強度試験結果が規定値を満足していれば、監督員に報告のち施工を開始することができる。ただし、材令28日の強度試験結果についても後日報告するものとする。</p> <p>※簡易塩分測定器は、(財)国土技術研究センターが技術評価し合格した簡易塩分測定器とする。ただし、簡易塩分測定器により測定不能の場合は、低濃度で測定できるものを使用してもよい。</p> <p>注1) 日常管理試験では簡便に測定する機器で行ってよい。</p> <p><u>注2) 試験結果に問題があった場合は、その後の1週間については1回/日の試験頻度とし、以降にあっては1回/週を継続するものとする。</u></p> <p>注3) 吹付け筒先および練り混ぜ直後の試料を採取し、設計混入率1.0%の基準に対し0.95~1.05%の混入率になっているかを確認する。</p> <p>注4) 練り混ぜ直後の試料を採取し、試験を行う。</p>	

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 新旧対照表 (3 / 5)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 令和元年7月版)	備 考																																																																																																																				
管理様式-3501	管理様式-3501																																																																																																																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">NO.</td> <td style="width: 5%;">日付</td> <td style="width: 10%;">年 月 日</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">グラウトの配合試験報告書</td> <td style="width: 5%;">主任 補助 監督員</td> <td style="width: 5%;">補助 監督員</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4" style="text-align: center;">切土補強土工法グラウトの基準試験</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">支社等名</td> <td colspan="3">事務所名</td> <td>現場 代理人</td> <td>試験 責任者</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">路線名</td> <td colspan="3">工事名</td> <td colspan="4">受注者名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種別</td> <td colspan="2">試験日</td> <td colspan="2">年 月 日</td> <td colspan="3">試験場所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施工条件</td> <td colspan="2">材 令</td> <td colspan="2">日 (試験日 月 日)</td> <td colspan="3">基準強度 (N/mm²)</td> </tr> </table>	NO.	日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書				主任 補助 監督員	補助 監督員					切土補強土工法グラウトの基準試験							支社等名			事務所名			現場 代理人	試験 責任者		路線名		工事名			受注者名				種別		試験日		年 月 日		試験場所			施工条件		材 令		日 (試験日 月 日)		基準強度 (N/mm ²)			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">NO.</td> <td style="width: 5%;">日付</td> <td style="width: 10%;">年 月 日</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">グラウトの配合試験報告書</td> <td style="width: 5%;">主任 補助 監督員</td> <td style="width: 5%;">補助 監督員</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td colspan="4" style="text-align: center;">グラウトの基準試験</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">支社等名</td> <td colspan="3">事務所名</td> <td>現場 代理人</td> <td>試験 責任者</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">路線名</td> <td colspan="3">工事名</td> <td colspan="4">受注者名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種別</td> <td colspan="2">試験日</td> <td colspan="2">年 月 日</td> <td colspan="3">試験場所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施工条件</td> <td colspan="2">材 令</td> <td colspan="2">日 (試験日 月 日)</td> <td colspan="3">基準強度 (N/mm²)</td> </tr> </table>	NO.	日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書				主任 補助 監督員	補助 監督員					グラウトの基準試験							支社等名			事務所名			現場 代理人	試験 責任者		路線名		工事名			受注者名				種別		試験日		年 月 日		試験場所			施工条件		材 令		日 (試験日 月 日)		基準強度 (N/mm ²)							
NO.	日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書				主任 補助 監督員	補助 監督員																																																																																																														
			切土補強土工法グラウトの基準試験																																																																																																																			
支社等名			事務所名			現場 代理人	試験 責任者																																																																																																															
路線名		工事名			受注者名																																																																																																																	
種別		試験日		年 月 日		試験場所																																																																																																																
施工条件		材 令		日 (試験日 月 日)		基準強度 (N/mm ²)																																																																																																																
NO.	日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書				主任 補助 監督員	補助 監督員																																																																																																														
			グラウトの基準試験																																																																																																																			
支社等名			事務所名			現場 代理人	試験 責任者																																																																																																															
路線名		工事名			受注者名																																																																																																																	
種別		試験日		年 月 日		試験場所																																																																																																																
施工条件		材 令		日 (試験日 月 日)		基準強度 (N/mm ²)																																																																																																																
<p>・材料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>種類</th> <th>製造工場名・産地名</th> <th>規格証明書, 品質試験報告書</th> <th>様式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>製造工場の様式</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	種類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様式	セメント				製造工場の様式	水										<p>・材料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>種類</th> <th>製造工場名・産地名</th> <th>規格証明書, 品質試験報告書</th> <th>様式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>製造工場の様式</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	種類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様式	セメント				製造工場の様式	水																																																																																						
種別	種類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様式																																																																																																																		
セメント				製造工場の様式																																																																																																																		
水																																																																																																																						
種別	種類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様式																																																																																																																		
セメント				製造工場の様式																																																																																																																		
水																																																																																																																						
<p>・試験結果</p> <p>配合及び強度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">配合番号</th> <th rowspan="3">水セメント比 W/C (%)</th> <th colspan="4">単位量 (kg/m³)</th> <th rowspan="3">比重</th> <th colspan="4">圧縮強度 (N/mm²)</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">水</th> <th rowspan="2">セメント</th> <th rowspan="2">細骨材</th> <th rowspan="2">混和剤</th> <th colspan="2">7日強度</th> <th colspan="2">28日強度</th> </tr> <tr> <th>各個値</th> <th>平均</th> <th>各個値</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場基準配合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	配合番号	水セメント比 W/C (%)	単位量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)				備考	水	セメント	細骨材	混和剤	7日強度		28日強度		各個値	平均	各個値	平均	現場基準配合												<p>・試験結果</p> <p>配合及び強度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">配合番号</th> <th rowspan="3">水セメント比 W/C (%)</th> <th colspan="4">単位量 (kg/m³)</th> <th rowspan="3">比重</th> <th colspan="4">圧縮強度 (N/mm²)</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">水</th> <th rowspan="2">セメント</th> <th rowspan="2">細骨材</th> <th rowspan="2">混和剤</th> <th colspan="2">7日強度</th> <th colspan="2">28日強度</th> </tr> <tr> <th>各個値</th> <th>平均</th> <th>各個値</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場基準配合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	配合番号	水セメント比 W/C (%)	単位量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)				備考	水	セメント	細骨材	混和剤	7日強度		28日強度		各個値	平均	各個値	平均	現場基準配合																																																								
配合番号			水セメント比 W/C (%)	単位量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)								備考																																																																																																					
				水	セメント	細骨材			混和剤	7日強度			28日強度																																																																																																									
	各個値	平均					各個値			平均																																																																																																												
現場基準配合																																																																																																																						
配合番号	水セメント比 W/C (%)	単位量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)				備考																																																																																																											
		水	セメント	細骨材	混和剤		7日強度		28日強度																																																																																																													
							各個値	平均	各個値	平均																																																																																																												
現場基準配合																																																																																																																						
<p>・塩化物イオン量試験</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">試験法</th> <th rowspan="2">測定番号</th> <th colspan="4">塩化物イオン量 (kg/m³)</th> <th rowspan="2">判定</th> </tr> <tr> <th>水+セメント</th> <th>平均</th> <th>混和剤※</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">塩化物イオン 量試験</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	試験法	測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定	水+セメント	平均	混和剤※	合計	塩化物イオン 量試験	1						2						3						<p>・塩化物イオン量試験</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">試験法</th> <th rowspan="2">測定番号</th> <th colspan="4">塩化物イオン量 (kg/m³)</th> <th rowspan="2">判定</th> </tr> <tr> <th>水+セメント</th> <th>平均</th> <th>混和剤※</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">塩化物イオン 量試験</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	試験法	測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定	水+セメント	平均	混和剤※	合計	塩化物イオン 量試験	1						2						3																																																														
試験法			測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定																																																																																																														
	水+セメント	平均		混和剤※	合計																																																																																																																	
塩化物イオン 量試験	1																																																																																																																					
	2																																																																																																																					
	3																																																																																																																					
試験法	測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定																																																																																																																
		水+セメント	平均	混和剤※	合計																																																																																																																	
塩化物イオン 量試験	1																																																																																																																					
	2																																																																																																																					
	3																																																																																																																					
<p>※塩化物イオン量試験の混和剤の塩化物イオン量は材料製造会社の品質成績表によるものとする。</p> <p>・施工性</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">配合番号</th> <th>フロー値調整</th> <th colspan="3">流動性 (P漏斗) 9~22秒</th> <th rowspan="2">比重</th> <th rowspan="2">練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)</th> <th rowspan="2">判定</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>混和剤 (kg)</th> <th>X1 (秒)</th> <th>X2 (秒)</th> <th>平均値 (秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	配合番号	フロー値調整	流動性 (P漏斗) 9~22秒			比重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判定	備考	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																														<p>※塩化物イオン量試験の混和剤の塩化物イオン量は材料製造会社の品質成績表によるものとする。</p> <p>・施工性</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">配合番号</th> <th>フロー値調整</th> <th colspan="3">流動性 (P漏斗) 9~22秒</th> <th rowspan="2">比重</th> <th rowspan="2">練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)</th> <th rowspan="2">判定</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>混和剤 (kg)</th> <th>X1 (秒)</th> <th>X2 (秒)</th> <th>平均値 (秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	配合番号	フロー値調整	流動性 (P漏斗) 9~22秒			比重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判定	備考	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																														
配合番号		フロー値調整	流動性 (P漏斗) 9~22秒							比重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判定	備考																																																																																																									
	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																																																																																																		
配合番号	フロー値調整	流動性 (P漏斗) 9~22秒			比重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判定	備考																																																																																																														
	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																																																																																																		

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 新旧対照表 (4 / 5)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 平成29年7月版)	改 定 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 令和元年7月版)	備 考																																															
管理様式-4101	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">管理様式-3501へ統合し、関連する 管理様式の番号を更新</p> </div>																																																
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:5%;">NO.</td> <td style="width:5%;"></td> <td style="width:5%;">日付</td> <td style="width:10%;">年 月 日</td> <td style="width:20%; text-align: center;">グラウトの配合試験報告書 グラウトの基準試験</td> <td style="width:10%;">主任 補助 監督員</td> <td style="width:10%;">補 助 監督員</td> <td style="width:5%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">支社等名</td> <td colspan="2">事務所名</td> <td>現場 代理人</td> <td colspan="3">試 験 責任者</td> </tr> <tr> <td colspan="2">路線名</td> <td colspan="2">工事名</td> <td colspan="4">受注者名</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種 別</td> <td colspan="2">試験日</td> <td>年 月 日</td> <td colspan="3">試験場所</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施工条件</td> <td colspan="2">材 令</td> <td>日(試験日 月 日)</td> <td colspan="3">基準強度 (N/mm²)</td> </tr> </table>			NO.		日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書 グラウトの基準試験	主任 補助 監督員	補 助 監督員		支社等名		事務所名		現場 代理人	試 験 責任者			路線名		工事名		受注者名				種 別		試験日		年 月 日	試験場所			施工条件		材 令		日(試験日 月 日)	基準強度 (N/mm ²)									
NO.				日付	年 月 日	グラウトの配合試験報告書 グラウトの基準試験	主任 補助 監督員	補 助 監督員																																									
支社等名			事務所名		現場 代理人	試 験 責任者																																											
路線名			工事名		受注者名																																												
種 別			試験日		年 月 日	試験場所																																											
施工条件			材 令		日(試験日 月 日)	基準強度 (N/mm ²)																																											
<p>・材 料</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>種 類</th> <th>製造工場名・産地名</th> <th>規格証明書, 品質試験報告書</th> <th>様 式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>製造工場の様式</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			種 別	種 類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様 式	セメント				製造工場の様式	水																																				
種 別			種 類	製造工場名・産地名	規格証明書, 品質試験報告書	様 式																																											
セメント						製造工場の様式																																											
水																																																	
<p>・試験結果</p> <p>配合及び強度</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">配合番号</th> <th rowspan="3">水セメント比 W/C (%)</th> <th colspan="4">単用量 (kg/m³)</th> <th rowspan="3">比重</th> <th colspan="4">圧縮強度 (N/mm²)</th> <th rowspan="3">備 考</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">水</th> <th rowspan="2">セメント</th> <th rowspan="2">細骨材</th> <th rowspan="2">混和剤</th> <th colspan="2">7日強度</th> <th colspan="2">28日強度</th> </tr> <tr> <th>各個値</th> <th>平均</th> <th>各個値</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場基準配合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	配合番号	水セメント比 W/C (%)	単用量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)				備 考	水	セメント	細骨材	混和剤	7日強度		28日強度		各個値	平均	各個値	平均	現場基準配合																								
配合番号			水セメント比 W/C (%)	単用量 (kg/m ³)				比重	圧縮強度 (N/mm ²)								備 考																																
				水	セメント	細骨材			混和剤	7日強度			28日強度																																				
	各個値	平均					各個値			平均																																							
現場基準配合																																																	
<p>・塩化物イオン量試験</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">塩化物イオン量試験</th> <th rowspan="2">試験法</th> <th rowspan="2">測定番号</th> <th colspan="4">塩化物イオン量 (kg/m³)</th> <th rowspan="2">判定</th> </tr> <tr> <th>水+セメント</th> <th>平均</th> <th>混和剤※</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	塩化物イオン量試験	試験法	測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定	水+セメント	平均	混和剤※	合計			1								2								3																		
塩化物イオン量試験				試験法	測定番号	塩化物イオン量 (kg/m ³)				判定																																							
	水+セメント	平均	混和剤※			合計																																											
		1																																															
		2																																															
		3																																															
<p>※塩化物イオン量試験の混和剤の塩化物イオン量は材料製造会社の品質成績表によるものとする。</p>																																																	
<p>・施工性</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">配合番号</th> <th>フロー値調整</th> <th colspan="3">流動性 (P漏斗) 10~18秒</th> <th rowspan="2">比 重</th> <th rowspan="2">練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)</th> <th rowspan="2">判 定</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>混和剤 (kg)</th> <th>X1 (秒)</th> <th>X2 (秒)</th> <th>平均値 (秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	配合番号	フロー値調整	流動性 (P漏斗) 10~18秒			比 重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判 定	備 考	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																				
配合番号		フロー値調整	流動性 (P漏斗) 10~18秒							比 重	練り上がり温度 5℃~35℃ (℃)	判 定	備 考																																				
	混和剤 (kg)	X1 (秒)	X2 (秒)	平均値 (秒)																																													

土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 新旧対照表 (5 / 5)

現 行 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 平成29年7月版)												改 定 (土工施工管理要領 Ⅲ. 切土工 令和元年7月版)				備 考	
管理様式-4102																	
NO.		日 付	年 月 日	グラウト日常管理試験報告書 (週 報)				主任 補助 監督員		補 助 監督員							
支社等名				事務所名				現 場 代理人		試 験 責任者							
路 線 名				工 事 名				受注者名									
項目 月日(曜)	試験結果						現場配合										
	流動性(P漏斗)10~18秒			比 重	練り上り 温度(℃)	塩化物イ オン量 (kg/m ³)	水セメント 比 W/C (%)	単 位 量(kg/m ³)									
X1 (秒)	X2 (秒)	平均 (秒)	水 W					セメント C	細骨材 S	混和剤							
月 日 (月)																	
月 日 (火)																	
月 日 (水)																	
月 日 (木)																	
月 日 (金)																	
月 日 (土)																	
月 日 (日)																	
強度試験用供試体採取				28日強度試験結果				供試体採取日				年 月 日					
採 取 日	供試体番号			供試体番号							平均						
月 日				強度													
記 事																	

管理様式-3502へ統合し、関連する
管理様式の番号を更新

新 旧 对 照 表

土工施工管理要領 Ⅸ. 出来形

令和元年 7 月

現 行 (土工施工管理要領 IX. 出来形 平成29年7月版)

改 定 (土工施工管理要領 IX. 出来形 令和元年7月版)

備 考

Ⅸ. 出来形基準

1. 出来形調書

受注者は、完成した工事目的物の寸法の測定結果を別添の出来形調書の様式(様式11~19)にしたがって作成し、監督員に提出するものとする。

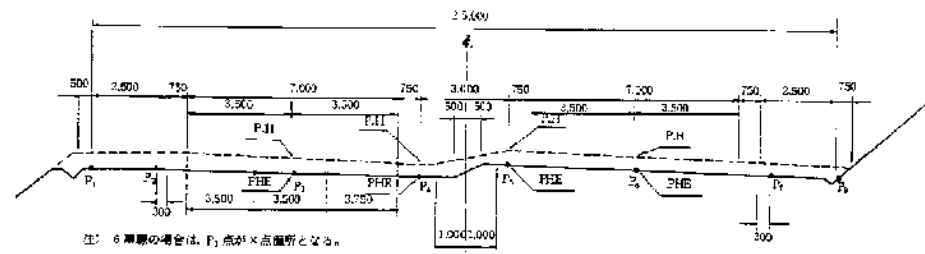
(1) 土工施工基面調書(高さ)(様式-11)

- ① 縦断方向の測定は、原則として線形測点に合わせて20m間隔とする。(インターチェンジのランプ等は、10m間隔とする。)

測点は、中心ぐいに標示板を設け明示することとする。
- ② 横断方向の測定位置は、**図Ⅸ-1**のとおりとする。

なお、測定点P1およびP8は、仮排水こう(Ev)がある場合には位置を変更することができる。
- ③ 路肩には計画高を明示した高さ確認標識を設置すること。
- ④ 調書に基づいて各測点ごとに平均ずれを算出し、これに計画巾員を乗じ各測点の過不足断面を求め、平均断面積法より過不足土量を計算する。

なお、計画高からのずれが高い場合は(+), 低い場合は(-)としてmm単位(mm以下は4捨5入)で記入する。



図Ⅸ-1 土工施工基面の横断方向の測定位置

(2) 土工施工基面調書(幅員)(様式-12)

- ① 土工仕上がり幅員は、各測定点ごとに測定する。
- ② 実測幅員は、中心線から路肩までの測定値を記入すること。
- ③ 移管境界線は、中心線から側道内側または側道内側の側溝内法線までとする(移管を行う境界線)。
- ④ 用地境界線は中心より幅ぐいまでとする。

(3) のり面工調書(様式-13)

- ① のり面工の測定は、切盛土の連続箇所、橋台、カルバートの巻込み、ランドスケープ等、必要に応じて実測寸法に基づき展開図を作成するものとする。
- ② 切土箇所ののり面においては、舗装工事施工分に相当する部分は数量に含めないものとする。ただし、コンクリート吹付工については、監督員が特に指示して土工基面まで施工した場合は、この限りでない。
- ③ 特殊のり面については、実測寸法に基づき展開図を作成するものとする。

(4) メーソソリー工調書(様式-14), パイプカルバート調書(様式-15)および用・排水構造物出来形調書(様式-16)

- (5) 載荷盛土調書(様式-17)
- (6) 表面排水工調書(様式-18)

Ⅸ. 出来形基準

1. 出来形調書

出来形の測定は、対象の工事目的物の寸法等を適切に測定できる方法を用いる。受注者は出来形の測定のうち、ICTを活用した方法を積極的に活用してよい。ICTを活用する場合は、受注者は監督員と十分に協議し、出来形基準に関する指示を受けるものとする。

受注者は、完成した工事目的物の寸法の測定結果を別添の出来形調書の様式(様式11~19)にしたがって作成し、監督員に提出するものとする。

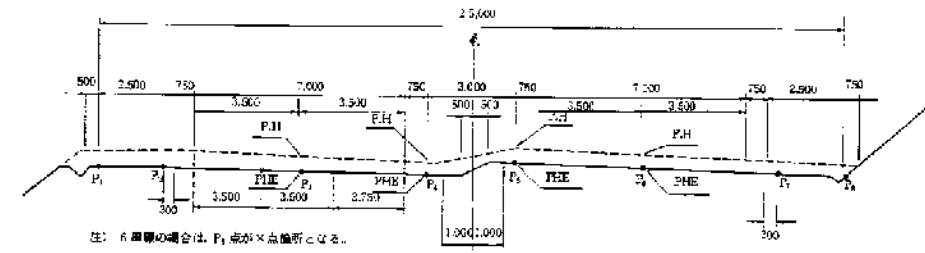
(1) 土工施工基面調書(高さ)(様式-11)

- ① 縦断方向の測定は、原則として線形測点に合わせて20m間隔とする。(インターチェンジのランプ等は、10m間隔とする。)

測点は、中心ぐいに標示板を設け明示することとする。
- ② 横断方向の測定位置は、**図Ⅸ-1**のとおりとする。

なお、測定点P1およびP8は、仮排水こう(Ev)がある場合には位置を変更することができる。
- ③ 路肩には計画高を明示した高さ確認標識を設置すること。
- ④ 調書に基づいて各測点ごとに平均ずれを算出し、これに計画巾員を乗じ各測点の過不足断面を求め、平均断面積法より過不足土量を計算する。

なお、計画高からのずれが高い場合は(+), 低い場合は(-)としてmm単位(mm以下は4捨5入)で記入する。



図Ⅸ-1 土工施工基面の横断方向の測定位置

(2) 土工施工基面調書(幅員)(様式-12)

- ① 土工仕上がり幅員は、各測定点ごとに測定する。
- ② 実測幅員は、中心線から路肩までの測定値を記入すること。
- ③ 移管境界線は、中心線から側道内側または側道内側の側溝内法線までとする(移管を行う境界線)。
- ④ 用地境界線は中心より幅ぐいまでとする。

(3) のり面工調書(様式-13)

- ① のり面工の測定は、切盛土の連続箇所、橋台、カルバートの巻込み、ランドスケープ等、必要に応じて実測寸法に基づき展開図を作成するものとする。
- ② 切土箇所ののり面においては、舗装工事施工分に相当する部分は数量に含めないものとする。ただし、コンクリート吹付工については、監督員が特に指示して土工基面まで施工した場合は、この限りでない。
- ③ 特殊のり面については、実測寸法に基づき展開図を作成するものとする。

(4) メーソソリー工調書(様式-14), パイプカルバート調書(様式-15)および用・排水構造物出来形調書(様式-16)

新 旧 対 照 表

土工施工管理要領 参考資料

Ⅶ 大型締固め機械による厚層盛土の品質管理

令和元年 7 月

土工施工管理要領 参考資料 新旧対照表 (1/1)

現行 (土工施工管理要領 参考資料 平成29年7月版)

改定 (土工施工管理要領 参考資料 令和元年7月版)

備考

参表Ⅶ-2 基準試験・日常管理試験の試験方法および頻度 (透過型 RI 計器による)

盛土の構成部位	項目	項目	試験項目	試験頻度	報告書の様式	備考			
路床部	上部路床 で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	5,000㎡に1回	地盤工学会6321			
			強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141	土の突固め試験については、		
		日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	試験様式-111	JIS A 1210 呼び名Bを実施		
			乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	5,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522	
		下部路床 で管理する土質	日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	試験様式-111		
				乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	10,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522
	路体部	上部路体 で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	10,000㎡に1回	地盤工学会6321		
				強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141	土の突固め試験については、	
			日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	試験様式-111	JIS A 1210 呼び名Bを実施	
				乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	10,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522
			工法規定で管理する土質	日常管理試験	—	—	20,000㎡に1回	材料の異なるごとに1回	
					—	—	施工箇所一層ごと		
下部路体 で管理する土質		基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	20,000㎡に1回	地盤工学会6321			
			強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141			
		日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	試験様式-111			
			乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	20,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522	
		工法規定で管理する土質	日常管理試験	—	—	20,000㎡に1回	材料の異なるごとに1回		
				—	—	施工箇所一層ごと			

※試験頻度については、当該工事の施工能力等を考慮し必要に応じて適宜変更する
 注1) 空気間隙率 (Va)、密度比 (Dc) および特別規定値 (Ds) は15点の平均値である
 2) 空気間隙率 (Va)、密度比 (Dc) および特別規定値 (Ds) は6点の平均値である

参表Ⅶ-2 基準試験・日常管理試験の試験方法および頻度 (透過型 RI 計器による)

盛土の構成部位	項目	項目	試験項目	試験頻度	報告書の様式	備考			
路床部	上部路床 で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	5,000㎡に1回	地盤工学会6321			
			強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141	土の突固め試験については、		
		日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	—	JIS A 1210 呼び名Bを実施		
			乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	5,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522	
		下部路床 で管理する土質	日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	—	日常管理試験のRI計器による土の密度・含水量測定結果は、電子データで出力する。出力データはクラウドツールを用いて、工事情報共有・保存システムに取り込む。	
				乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	10,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522
	路体部	上部路体 で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	10,000㎡に1回	地盤工学会6321		
				強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141	土の突固め試験については、	
			日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	—	JIS A 1210 呼び名Bを実施	
				乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	20,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522
			工法規定で管理する土質	日常管理試験	—	—	20,000㎡に1回	材料の異なるごとに1回	
					—	—	施工箇所一層ごと		
下部路体 で管理する土質		基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	20,000㎡に1回	地盤工学会6321			
			強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141			
		日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日15点 ²⁾	—	日常管理試験のRI計器による土の密度・含水量測定結果は、電子データで出力する。出力データはクラウドツールを用いて、工事情報共有・保存システムに取り込む。		
			乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	20,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522	
		工法規定で管理する土質	日常管理試験	—	—	20,000㎡に1回	材料の異なるごとに1回		
				—	—	施工箇所一層ごと			
構造物裏込め部	裏込めA で管理する土質	基準試験	土粒子の密度試験	試験法[JIS A 1202]	5,000㎡に1回	地盤工学会6321			
			強熱减量補正係数の決定	試験法106	材料の異なるごとに1回	試験様式-141	土の突固め試験については、		
		日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日6点 ²⁾	—	JIS A 1210 呼び名Bを実施		
	乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質		基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	5,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522		
	裏込めB で管理する土質	日常管理試験	RI計器による土の密度試験	試験法106	施工箇所一層ごとに1日6点 ²⁾	—	日常管理試験のRI計器による土の密度・含水量測定結果は、電子データで出力する。出力データはクラウドツールを用いて、工事情報共有・保存システムに取り込む。		
			乾燥密度 (ρ _d) で管理する土質	基準試験	土の縮固め試験	試験法[JIS A 1210]	5,000㎡に1回	地盤工学会6521, 6522	
日常管理試験		—	—	施工箇所一層ごと	—				

※試験頻度については、当該工事の施工能力等を考慮し必要に応じて適宜変更する
 注1) 空気間隙率 (Va)、密度比 (Dc) および特別規定値 (Ds) は15点の平均値である
 2) 空気間隙率 (Va)、密度比 (Dc) および特別規定値 (Ds) は6点の平均値である